

花と緑の銀行だより

200号 記念号 2016.7



タイトル：勝興寺参道（高岡市）

目次

- 花と緑の提言 〈「高岡市の花いっぱいのもちづくりについて」（高岡支店）〉…… 2
- 200号記念 〈「富山県における花のまちづくりの特徴と今後への期待」
（花と緑の銀行）〉… 3
- 200号記念 〈G7富山環境大臣会合における花のおもてなし〉
（花と緑の銀行 緑花推進部、富山支店）…… 4
- 技術講座 〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⁽²⁴⁾〉…………… 5
- 緑づくりコーナー 〈庭木に利用する樹種の特徴と管理—キンモクセイ—〉…………… 6
- この人あり 〈「地域に笑顔を咲かせる活動」（立山支店）〉…………… 7
- 情報コーナー 〈平成28年度 さくら守養成講座〉…………… 7



高岡市の花いっぱいのもちづくりについて

花と緑の銀行 高岡支店長

高岡市長 **高橋 正樹**

今年は、例年より暑い日が続いており、さまざまに花壇を彩る花や木々たちにとって、雨を待ち遠しく感じる天候となっております。このような中においても、頭取、グリーンキーパーを始めとした皆様のご尽力により、地域の花壇や公園が美しく保たれており、心より感謝申し上げます。

さて、富山県西部に位置する高岡市の歴史は古く、8世紀に越中の国府が置かれて以来、越中文化の発祥の地といわれ、国守として赴任した万葉集の代表的歌人である大伴家持が220首余りの秀歌を残しています。高岡市には、これらの歌に詠まれた水と緑が織りなす風光明媚な自然や景観、長い歴史の中で培われた薫り高い伝統と文化が息づいています。

本市では、このような歴史的背景を踏まえ、平成24年3月に緑化の推進に関する総合的な計画である「高岡市グリーンプラン」を策定し、「万葉集に詠まれた植物の普及の推進」、「緑化の推進に携わる人づくり」に重点を置いて、「みどりあふれる万葉のふるさと」の実現を目指しております。

現在、花と緑の銀行高岡支店には35地方銀行366名の頭取やグリーンキーパーが緑化推進活動に取り組んでいます。

昨年3月に県民の皆様が待ちに待った北陸新幹線、新高岡駅が開業しました。このお祝いとして、各地方銀行の頭取やグリーンキーパーのご協力をいただき、新高岡駅南口にコンテナガーデンを22基展示し、おもてなしの心をもって観光客をお迎えしました。各地方銀行が制作したコンテナガーデンはどれも良い出来栄であり、文字通り、北陸新幹線、新高岡駅の開業に花を添えました。



写真1 開業当日の新高岡駅南口

また、この制作の経験を活かし、平成28年2月の公益財団法人花と緑の銀行主催の「花とみどり・ふ

れあいフェア」のコンテナガーデンコンテストに福田、西広谷、牧野の3地方銀行が出展し、福田地方銀行がコンテナガーデン大賞に、西広谷地方銀行が優秀賞の栄誉に輝きました。



写真2 福田地方銀行コンテナガーデン大賞
「古き万葉の里に新草かおる早春の譜」

この他、観光客の皆様には花を楽しんでいただくことを目的とした「おもてなしフラワー事業」では、高岡大仏の参道である坂下町、勝興寺寺内町が取り組みを継続しており、地域住民に花を通じておもてなしの心を表現することが根付いております。



写真3 おもてなしフラワー事業（坂下町）

今後とも、頭取、グリーンキーパー及び市民の皆様方には地域の緑化活動に一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、結びに、公益財団法人花と緑の銀行の今後益々のご発展と、皆様方のご健康及びご活躍を祈念申し上げます。

富山県における花のまちづくりの特徴と今後への期待 ～第25回記念全国花のまちづくりコンクール特別表彰を受彰して～

花と緑の銀行 普及研修部

「花と緑の銀行だより」は昭和49年5月に創刊号を発行してから、平成6年1月に100号、そして、今回の平成28年7月に200号と44年間をかけて花壇管理の方法や地域での花壇づくりの様子、また、緑化推進に活躍されている頭取・グリーンキーパーさんらの活動、さらには、花壇や花の道のコンクールの審査結果や花と緑のイベントなど、花と緑に溢れた潤いのある地域づくりに関係した記事がたくさん掲載されてきました。

この間、花壇や花の道づくりに熱心に取り組まれた皆様をはじめ、素晴らしい記事をご執筆いただいた方々に心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

これらの記事が花壇づくりに携わる人々に大きな力となったことは言うまでもありません。

また、平成3年から開始された全国花のまちづくりコンクールへ県内の優秀な活動を推薦したことで富山県の花のまちづくりが高く評価されてきました。このことから、平成27年度の第25回全国花のまちづくりコンクールにおいて、全国で初めて「公益財団法人 花と緑の銀行」が第25回記念花のまちづくり特別表彰を受彰しました。これまで、県の花のまちづくりに関係された全ての皆様とともに、心から喜び、これからの花と緑の推進に向けた、大きな励みとしたいと考えております。



写真1 全国花のまちづくり特別表彰 表彰式
(平成27年10月28日 東京都 霞ヶ関ビル35階)

1. 富山県の花のまちづくりの特徴

第25回記念全国花のまちづくりコンクール特別表彰の受彰理由は以下の3点です。

- (1)公益財団法人 花と緑の銀行が主催する富山県花のまちづくりコンクールは、全国花まちづくりコンクールの第1回から連携し、連携年数は25年連続で都道府県別で最長。
- (2)富山県のこの10年の応募累計は2,710件と全国最多。
- (3)大賞受賞者数が20件と都道府県別では最多数で、活動レベルが高い。

特に、花のまちづくり大賞20件の内訳は市町村部門：5点、団体部門：11点、企業部門：1点、個人部門：3点と全ての部門で受賞していること、また、ここ10年間における大賞受賞件数を見ても他県に比べてコンスタントに受賞を増やしており、これらの点が高く評価されたものと言えます。

ただし、直近10年間の優秀賞や奨励賞などの受賞合計数を見た場合、富山県は大賞狙いの少数精鋭での応募のためか、兵庫県や静岡県のような大きな伸びはみられず、上位入賞件数では全国第6位に止まっています。

今後、富山県の花のまちづくりをより一層伸ばすためには、地域における特徴的な活動によりきめ細かく光を当て、全国花のまちづくりへ積極的に推薦していくことが大切と考えられます。

2. 富山県の花のまちづくりへの期待

今回の特別表彰を記念して、全国花のまちづくりコンクール事務局の金富信行氏に「富山県の花のまちづくりへの期待」と題してご講演いただきました。既に全国トップレベルである富山県の花のまちづくりに対して、以下の3つのご示唆を賜りました。

(1)もっと個性的なデザインや色使いを駆使した、新たな花壇づくりへの挑戦

富山の花壇づくりは大変技術レベルが高く、淡い色調が美しく、また宿根草や薬物も上手に使われています。さらに、高低差をつけたメリハリのある植栽も多く見られます。

ただし、富山スタイルの花飾りが、どこでも良く似たイメージになってしまう、という点です。この声は審査委員会でも良く聞かれていて、ある先生は「写真を見ただけで、富山県からの応募だとすぐわかる。」とおっしゃいます。もっと個性的なデザインや色使いなどがあれば、更によくなるのではないのでしょうか。

また、花壇をより美しくしようと、そればかりに意識を集中されがちですが、視野をもっと広げていただき、写真で言えば引いて見ていただいて、周囲の風景や街なみとのバランスをより意識して活動されれば、さらに広い範囲で花のまちづくりが定着します。

(2)子供から高齢者まで、一緒に活動する花のまちづくり

富山県では花壇コンクールに幼稚園・保育所部門や学校花壇部門があり、さらに、標語やポスターコンクールなど、子供たちの花のまちづくりへの参加も大変進んでいます。

しかし、子供から高齢者までが一緒になって花のまちづくりを進めているという事例が、他県の先進事例に比べると少ない印象があります。

子供が大人の人達と一緒にあって、大人の指導を受けながら作業をすることが、子供の健全な発育につながると言われています。また、高齢者にとっても心が癒され、ボケ防止にもなります。

さらに、お年寄りが地元の昔話を子供たちに聞かせることで、子供たちは地元の歴史に興味を持ち、さらには地元への愛着にもつながると言われています。

是非、意識して子供たちと一緒に活動することを取り入れて頂ければと思います。

(3)地域の活性化につながる花のまちづくり

全国の優秀事例には、花を活かした観光振興や地域の特産物を掘り起こす活動、さらには花のまちづくりから雇用を生み出す活動もみられます。このような視点を取り入れていけば、もっともっと富山の花のまちづくりが進化していくものと考えています。

そして、地域や県内だけでなく、特に、県外の地域や人との交流をさらに増やせば良いと思います。お互いにその土地を訪問しあって、花のまちづくりのポイントを教え合うことが大切です。県外との交流を増やせば飲食や宿泊、お土産を買うなど、経済効果も出てきます。最初は訪問客数が少なくても、花のまちづくりが魅力的であれば、徐々に訪問する人も増えると思います。是非他県の先進事例を見に行き、富山県にも見に来ていただくよう、積極的に交流を進めることが大切です。

G7富山環境大臣会合における花のおもてなし

花と緑の銀行 緑花推進部、富山支店

1. 玄関口での花のおもてなし（緑花推進部）

G7 富山環境大臣会合の開催機運醸成を図ることに加え、来県されるG7要人をはじめとする参加者等の方々に季節感あふれる花と緑でおもてなしするため、富山県からの委託を受け、富山駅（新幹線駅）及び富山きときと空港において、会合開催の1ヶ月前の4月16日から5月16日まで、花飾りと歓迎ボードの設置を行いました。

(1)富山駅（新幹線駅）での花のおもてなし

改札口の真正面となる中2階のガラス壁面前に、県花であるチューリップや無花粉スギ「立山森の輝き」、「薬の富山」を象徴するシャクヤク等の薬草、富山市呉羽のナシの花の他、富山で生産された花卉等で華やかに飾りました。



写真1 花飾り・歓迎ボード全景



写真2 4月の展示状況



写真3 5月の展示状況



写真4 記念写真を撮る外国人来訪者

(2)富山きときと空港での花のおもてなし

国際線出口正面に、従来から設置しているおもてなし花壇に、歓迎ボードを設置し、機運醸成を図りました。



写真5 花壇前歓迎ボード設置状況

2. 富山会場周辺での花のおもてなし（富山支店）

富山市ではこれまで「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を進めることなどにより、2014年9月に国際連合SE4 Allから「エネルギー効率改善都市」に国内で唯一選定され、国際的に高い評価をいただきました。このことがきっかけとなって、平成28年5月15、16日に、G7 富山環境大臣会合が開催されました。

会場となる「富山国際会議場」周辺の街路等では、この日にあわせて花の見ごろを調整した約300基のフラワーハンギングバスケットの臨時設置を行いました。



写真6 フラワーハンギングバスケットによる国際会議場周辺の花飾り

また、市内電車環状線の国際会議場前などの停留場において、坪庭を作庭し、和の雰囲気で装飾すると同時に、城址公園では、市民サポーターの皆さんが、この会合にあわせて植え付けから管理をされたフラワーハンギングバスケットや、NPO花街道薬膳を夢みる会、富山造園業協同組合と市との協働で植えた花壇など、市民の皆さんと一緒に、富山市へ訪れた各国の要人等を、花でおもてなししました。



写真7 国際会議場前停留所の坪庭



写真8 市民サポーターによるフラワーハンギングバスケット

今後も、大きなイベントにあわせて花の見ごろを迎えられるよう植栽時期を調整するなどして、市民の皆さんと一体となって、多くの方々に花で彩られた富山のまちをより楽しんでいただけるよう努めてまいります。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②④

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

フランネルソウ

フランネルソウは、南ヨーロッパに自生している宿根草です。スイセンノウやリクニス・コロナリアとも呼ばれています。葉と茎には、柔らかそうな白い毛があるため、全体的にクリーム抹茶色に見えます。植物とは思えない毛織物のような触り心地です。花は、5月下旬から7月中旬頃まで咲きます。おもな花色は、赤紫（写真1）と白です。茎の先に花が咲くので、花がふわふわと空中を浮いているような咲き方をします。



写真1 手前からフランネルソウの赤紫色の花、一年草のオルレア(白花)、バーバシカム・ニグラム(白花)イトススキ。6月中旬。

フランネルソウの茎には、ウサギの耳のような向かい合う2枚の葉が出てきます。茎のてっぺんに、直径4cm位の花が一つ咲きます。これで終わりではありません。咲いた花がくたびれてくる頃、その花の6cmぐらい下に付いている2枚の小さな葉の間から「そろそろ出番ですね」と言わんばかりに、つぼみ一つ顔を出します。つぼみをもった茎がどんどん伸びて、また2枚の向かい合った葉をつけて、その茎の先に花を咲かせます。これをせっせと繰り返して小出しに花を咲かせながら草丈を伸ばします。そのため、一つの花の命は4日から5日ですが、花は

2ヶ月ぐらい楽しめます。花が終わると、花びらはこげ茶色に染まり小さくなりますが、気になるほどではありません。あまりにも時間をもてあましている方は、花がしぼんだら、花のすぐ下にある葉の上で茎ごと切り戻しましょう。楽しくなるようでしたら、続けてみてください。面白いフランネルソウの形ができるかもしれません。

フランネルソウは、命の短い宿根草のため、2年から3年後には自然に消えてゆきますが、こぼれ種で芽がでます。種ができる頃は茎がからみあって、こんがらがって見えてきますので、思い切って茎を根元から切り戻してください。茎を切ると、銀色の綿毛につつまれた波打った葉が地面から直接出ているのに気づきます。これが、翌年に咲く株になります。茎を切り戻して葉っぱにだけ養分を吸ってもらいますと、寿命が少し延びるようです。

フランネルソウのデザインは、とても簡単です。花と茎の色が似ている白花を植えてみてください（写真2）。花壇がやさしくなります。フランネルソウは、お庭で遊牧民のごとくふるまいます。こぼれた種が飛んで行った所が気に入れば、そこで元気に芽を出します。自由奔放なフランネルソウには、思いもよらないデザインをフランネルソウに任せるのが一番です。日当たりが良く乾いた所が好きで、肥料もたくさん欲しがりませんので、一株植えた後は、どんなふうにも花壇を移動してゆくのか、のんびりとながめるだけで良い花です。



写真2 フランネルソウの白花。6月中旬。草丈80cm。

庭木に利用する樹種の特徴と管理ーキンモクセイー

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

秋に公園や街中を歩いていると、どこからともなく良い香りが漂ってきます。それはキンモクセイの花の香りです。ジンチョウゲやクチナシとともに香りの良い花木の代表選手です。今回はキンモクセイを紹介します。

1. 特徴

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木で、ギンモクセイの変種です。中国南部が原産で江戸時代に渡来した花木です。秋になると小さいオレンジ色の花を無数に咲かせ（図-1、2）、芳香を放ちます。非常によい香りがするので、公園や庭に植えられています。

「キンモクセイはなぜ実がならないのですか」という質問がよくあります。キンモクセイは雌雄異株で、日本に入ってきたのは雄株のみであり、雌株が入ってこなかったために実がならないのです。

なお、本来のギンモクセイも、庭や公園などに植えられています。キンモクセイより一足早く花が咲きますが、香りが少ないのと花の色が白いので（図-3）、ほとんど目立たない花木です。

2. 維持管理

日当たりのよい場所を好む花木です。周囲の状況をよく判断し、建物や他の樹木の陰になるようなところに植えるのは避けてください。日照不足になると枝が細長くなったり、常緑樹なのに葉を落としたりすることがあります。



図-1 キンモクセイの花。
2012年10月19日撮影。

適度な湿り気のある肥沃な土で良く育ちます。この点にも注意して植えてください。

この花木は、春に伸びた新芽に8月上旬頃に花芽が作られ、その年の秋に開花します。花木の中では花芽形成から開花の時期までの期間が最も短いものの一つです。剪定は秋の開花後から、翌春の4月までの間に行います。それ以降は、徒長枝などを切る程度にします。刈り込みに耐え、よく萌芽するので、好みの樹形に仕立てることができます。

さし木で増やすことができます。作業の適期は6月から7月の梅雨時期です。今年伸びた新しい枝の先端を10～15cmの長さに切り取り、切り口を斜めにカットして水に2～3時間挿して十分に水揚げをした後、赤玉土など水はけの良い土に挿して乾かさないように管理します。



図-2 キンモクセイの花を拡大したもの。
2009年10月13日撮影。



図-3 ギンモクセイの花。
2012年10月5日撮影。

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



「地域に笑顔を咲かせる活動」

花と緑の銀行立山支店 下段地方銀行

頭取 村井 健 悦

私は、下段地方銀行の頭取として活動し、4名のグリーンキーパーのみなさんと協力して花壇の管理を行っています。私がメンバーとして活動を始めたのは平成4年で、もう20年以上経ちました。花の世話も、慣れるまでに時間がかかります。活動を続けていくうちに、色々な方との出会いもありました。

毎日朝5時頃から花の世話をするので、大変なこともありますから、楽しみながらこういった活動を実施していることが、元気の秘訣なのかなとも思います。

周りのみなさんの協力もあり、平成24年度には、「公益財団法人花と緑の銀行理事長表彰」を受彰しました。この間、仕事のOBの仲間が集まる機会があったのですが、そのときも下段地方銀行での取り組みを話しました。地域のみなさんが、咲いた花を見て笑顔になってくださるとうれいしですし、色々な方に、花の世話などの緑化推進活動に興味を持っていただければと思います。

それでは、下段地方銀行の取り組みを紹介します。主な活動は、公民館や保育所近くの花壇やプランターに咲く花の世話です。ここには、毎年違う種類の花を植えるようにしていて、今年は美人草（ヒナゲシ）を植えました。葉牡丹の植え替えも行いま

した。今年も七夕飾りの季節となり、暑い日が続いていますが、昨年の夏、暑い中で協力して花の世話をしたことを思い出します。風の強い日には、コスモスが倒れそうになって、棒を立てて花を伸ばしました。花苗を植えるまで、自分の家の横で管理することもあります。

今年の5月には、全国植樹祭のプレ大会に参加しました。大会や研修を通して、緑化推進活動を行う上で必要な知識を身につけられますし、他の地域で活動されているみなさんと交流することもできるので、今年度もできるだけ参加したいと思っています。

これからも、研修などに参加して知識を深めつつ、地方銀行のみなさんと協力して活動していきたいです。



写真1 下段保育所花壇



写真2 下段公民館

〈情報コーナー〉

【平成28年度 さくら守養成講座】 緑花推進部

当財団では、富山県からの委託を受け、平成28年度さくら守養成講座を実施しています。すでに6月12日に開講式第1回の講座を、6月19日に第2回の講座を、6月26日に第3回の講座を、それぞれ実施しました。今回の講座は、この3回の講座を含め、11月6日までに全部で9回の講座を実施します。

この講座は、富山県内にはサクラの野生種や栽培品種が数多く見られることから、サクラの保護育成、富山のさくらのよさを普及啓発するため、地域にあるサクラを積極的に守り育てて頂く「さくら守」を養成することが目的です。これまで平成15年、16年、17年、23年に実施されています。今回の講座は、5年ぶり5回目ですが、講義よりも実習に重点をおき、サクラの健康診断が自力で出来ることをねらいとしています。

現在28名の受講生の皆様が熱心に講義や実習を受講中です（写真1）。受講生の皆様は県内各地から



写真1 さくら守養成講座の実習

参加され、高岡市7名、富山市5名、砺波市4名、南砺市4名、立山町3名、魚津市2名、上市町2名、氷見市1名です。本年度の講座を無事修了され、これまで受講されたさくら守の皆様と一緒に、活躍されることを期待しています。

表紙写真：「勝興寺参道」（高岡市）

裏表紙写真：「開花1日目のホオノキ 5月下旬立山町吉峰にて」…写真提供 長谷川 幹夫氏



「開花1日目のホオノキ 5月下旬立山町吉峰にて」



花と緑の銀行だより 200号

発行日 平成28年7月

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>